

悪食？いいえ大喰い

\*美亜\*

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

食物連鎖の頂点はなんだと思う？

人間？

はっ！笑わせないでくれないかしら

確かに人間は雑食だけど

頂点にいるのは、私達“喰種”なのよ

家畜の分際で調子に乗らないで欲しいわ

え？私に誰かつて？

そうね、名乗らないのは失礼よね

私は神代利世。

この先は私の物語よ

覗いてみる？勇気があるのなら、だけれど

---

ss 投稿掲示板から。

リゼ様尊い…。

更新？なにそれおいしいの？

# 目次

S e r i a l  k i l l e r  	v a l u e  	G a m e  
9	5	1

# Game

……あら？ どこかしら、ここ

神代利世は困惑した

先程自分は死んだと思ったのに、なぜこんなところにいるのだろう

死んだと自覚していながら、ここはどこなのかしら、と首を傾げ呑気なことを口走っていたことに気付いていなかった

あれは、獲物を狩ろうとしていたときだ。

純情そうな青年

筋肉も脂肪も適度に付いていてオイシソウだった

トドメを刺したと思ったその瞬間

見上げると突然工事現場の鉄骨が落下してきてきたのだ

ビルの上に立つ人物を見たときなぜ、と思った  
ピエロのマスクをした懐かしいあのこを

だが、今となつては考えるのも無駄なのだと思つた

そこらにある看板は見知らぬ文字。

リゼは読書が趣味で喰種でありながらも日本語と英語を習得していた

(どういふことなのかしら…)

限りなくアルファベットに似ているがリゼには意味不明な文字だった

アルファベットが横向きになって他のアルファベットと合体している文字

こんな文字みたことも無いわ、と呟いた

その辺を歩いていると若い男に声をかけられた

俗にいうナンパ、である

リゼにとつては珍しいことでもなく、普通の人間ならば多少動揺するのだが、リゼの脳内では欠片も考えておらず、別のことを考えていた。

リゼはその男を人気の無い場所に連れ込み、男に近づくと微笑みを浮かべた。そして

身体を近付け密着させる。するとリゼの腰を何か突き破った。『ソレ』は禍々しく赤く輝いており、鱗のようなものもみえた。くねくねと動くソレはまるで触手だった。ソレはリゼ自身が『喰種の爪』と称しているもの。一般的には『赫子』と呼ばれる。ひとりひとり赫子の色や形などは違い、それは親から引き継がれる場合が多い。リゼは赫子を出現させ、一瞬のうちに男の腹を突き刺し、ぐちゃぐちゃと掻き回した。

男のから発せられるはずの野太い声は出ない。なぜならリゼが潰してしまったからだ。くすくすと笑いながら腹から血を流している男に近寄る

男は必死に逃げようとしますが、それはかなわなかった。痛みからか、恐怖からか、はたまた赫子で地面に縫い付けられているからなのかは分からなかった

男は涙と鼻水で顔は酷い状態になっており、既に声になっていないが、悲鳴をあげているのだろうと推測できた。

「くすくすくす…痛いですよね？当然ですよね、だって痛あくしてるんですから♪でも私は優しいからわざわざ優しく優しく掻き回してあげてるんですよ？感謝してください♪」

リゼはさも愉快そうに言った

男にとつては地獄である。生きたまま腹の中は弄り回され、死なない程度に遊ばれているのだ。そして時々赫子でナカミを引きずり出して「はい、これが小腸ですよ。みたことあります？」などとわざわざ男に見せつけ、目の前で齧り付くのだ。

命乞いをしようにも喉を潰され、悲鳴すら出ない。カエルのような呻き声はリゼを笑わせるだけだった

手が血に塗れることも気にせずに“ソレ”を食べながら男のズボンを漁った  
出てきたのはいかにも高そうな皮のサイフである

リゼは慣れた手つきで服からハンカチを取り出すと手に付着した血を拭き取った  
そしてサイフを自分のポケットにしまった

リゼは何事も無かったかのように“食事”を続けた



## value

暗い路地裏でグチャグチャと咀嚼音がする。女は地べたに座つて肉塊を食していた。彼女の名はリゼ。見た目は普通の人間だが、それとは似て異なる存在である。

“エモノ”を喰い散らかしたりリゼは口まわりの血をハンカチで拭き取った。彼女は“食事”に対して上品さというものがなかったので口周りも手も血まみれだった。

真つ白だったハンカチは真つ赤に染まった。それを畳んで服にしまうと何事も無かつたかのように路地を出る

リゼが男を襲つた理由は至極簡単だ

まず、捕食

得体の知れない土地では腹を満たしておいた方が効率がいい。いざとなつて空腹では色々不都合なのだ

そして、金銭であつた

どこだろうと金がなければどうにもならない

見知らぬ土地で無一文というのはとても痛い。人ではない彼女にとって金銭とはと

でも大事なものなのだ

リゼの容姿は整っている。それは本人も自覚していることだ。微笑み、優しい声をかければエモノがかかえることを知っている。だから誑かすことができる

言葉巧みに、二人きりになれる場所へ行きましょう、なんて言えばその日の夕飯決定である。原型など残さずただの肉塊にされるのがオチだ

「宿泊できる場所探さなきゃね」

いくら喰種といえど、〃住〃は必要だ

喰種のホームレスなんて死んでもごめんだもの、とぼやいた。人でない彼女はいつも身の回りに危険が潜んでいた。それでも彼女が今まで生きてこれたのは絶対的な強さのおかげだった。だが、落ちて着いて休息ができる場所は必要だった。彼女は強い。故に常に恨みを買っていた。

死なないために、住居は必要だった

ああ、もう死んだんだっけ？

そう言うリゼは興味なさげに言った

「ん〜んなんツて快適な朝なのかしら♪」

彼女の本性とはまったく似合わない真っ白な毛布に包まれたりゼは背伸びをして、笑みを浮かべた

ホテルの従業員に聞いてみたが、喰種の存在を知っている人間はいなかった

この世界に喰種は存在しない

つまり！ここには私の食事を邪魔する馬鹿はいない！

雑魚喰種共も煩わしい捜査官共も!!

なんて：なんツて素敵な場所なのかしら!!!

嗚呼、不思議。あんなにもオイシソウだった金木さんにもう興味が失せてしまった

私、よく喰べるからお父様に怒られたことがあったわ。他にも喰種達にも喰い過ぎだ、と言われたわ。

人間たちが気付くから、捜査官どもがやってくるから、あまり目立つことはするなど。だけど、捜査官がいないなら、喰種がいないなら・・・

いくらでも喰べていいってことよねえ？

## Serial killer

『はい、次のニュースです』

×× 在住の\*\*さんが遺体で発見されました。遺体は何なのか予測できない凶器により、身体中を貫かれ、さらに臓器がごつそりと抜かれていたそうです。遺体は損傷が激しく、警察は慎重な捜査を進めると共に……』

猟奇的な殺人事件が報道された。

それは未知の凶器により殺害され、内臓を抜き取られるという常識とはほど遠いものだった

最初の事件が発覚して早1ヶ月。それまでに殺されたのはわかっているだけで19人。19人だ。2日に一人以上は殺されている計算になる。被害者は十代後半から三十代後半までの範囲だ。

人々はこの連続猟奇殺人鬼に恐怖を抱いた。なぜなら、遺体は内臓を抜き取られていた、身体を貫かれていた以外に身体に損壊があった

腕や足、首、腹、頭……そのときによりバラバラだが、報道された「たった一言」、『ま

た、それ以外の損壊部位には犯人のものと思われる「唾液」が付着していました」

想像できるだろうか？ 損壊部位に犯人の唾液：つまり、「犯人は被害者を食べていたのだ！」

勿論警察はその唾液を鑑定しないほど馬鹿ではなかった。だが、結果が「出なかったのだ!! 何度鑑定しようとも〔error〕〔ERROR〕…。このことから警察はこれを魔獣の仕業の可能性を指摘。しかし、歯型は人型であり、人型の姿をとる魔獣の体液とも照合したが一致しなかった。これにより未知の魔獣の可能性を指摘しハンター協会に調査を依頼するも有力な手掛かりは見つかっていない

本来食人とは大罪だ。人間には七つの大罪と呼ばれる欲がある。それとは他に三つの犯してはならない人間としての領域がある。それは「親殺し」「近親相姦」そして「食人行為」だ。親を殺すことは育ててもらった恩を仇で返すということ。近親相姦による妊娠は死産、または奇形児が多く、近親相姦を繰り返すこと、近親相姦を繰り返すことにもなり、そんなことになれば人類存続の危機だろう。人肉を食すということはその人間の持っている病原菌をそのまま身体の中に入れることと同意であり、また、脳を食せば身体を自ら害すことになるだろう。

これは「罪」なのだ

その殺人鬼は極めて残虐の限りをつくした。生きたまま被害者の腹を裂き臓物を引きずり出したり、首を一回転させてねじ切ったり、その他指の骨を折る、眼球を抉る、鼻を削ぐ、そんな拷問じみた行為が自分たちの身近に起こったという事に皆が恐怖した。まるで人間を人間とも思っていないような行為だ。まるで、「遊び」のようだ。おそらくその殺人鬼にとって人間は解剖用のカエルと大差ないのだろう。

世間はその殺人鬼をこう名付けた

「カニバル」と

『C a n i b a l (カニバル)』カニバリズム(食人嗜好)の語源